

平成26年度事業報告

自 平成26年4月 1日

至 平成27年3月31日

公益財団法人 海原会

平成 2 6 年度 事業報告書

自 平成 2 6 年 4 月 1 日

至 平成 2 7 年 3 月 3 1 日

海原会の基本事業は、戦没された予科練同窓生各位の御霊の安らかならんことを願い、その慰霊を行うと共に、ご遺族から寄贈された遺書・遺品・遺影等を保管・整備し予科練の歴史的事実を正しく後世に伝承することにあります。

然るに終戦以来 7 0 年を経過した今日、必然的に会員の高齢化が進みその結果として物故者が年毎に増加していること、更に体調を崩し気力は有っても行動が伴わないという現実の厳しさが増加傾向にあることなどから、会の運営が困難化していることは遺憾ながら否めない現状であります。

海原会では、このような状況を十年前から予測し会の後継者として陸上自衛隊武器学校 O B 会から推薦を受けた会員を逐次役員に配置し、会の世代交代を推進しつつあります。

特に、今年度末をもって霞が浦支部の構成員が予科練同窓から武器学校 O B に交代になりその編成を完了しました。次年度以降、武器学校 O B が主体となった支部の運営を心掛けて参ります。

我々海原会会員は、若くして自らの命を投げ打って国難に殉じた予科練同窓英霊の思いを継承するという当会の目的を達成するために、平成 2 6 年度の事業にも全員が一丸となって精進してまいりました。

以下その概要を御報告いたします。

I 慰霊顕彰事業

慰霊顕彰事業の最も重要なものは、陸上自衛隊武器学校の敷地内に建立されている「雄翔園」における「予科練戦没者慰霊祭」であります。平成 2 6 年度は若葉薫る 5 月に実施いたしました。青葉若葉の初夏の香りを感じさせる快晴のもと約 4 0 0 名の同窓生及びご来賓の皆様が、日本全国からご参列頂き、厳粛かつ和やかな慰霊祭を挙行することができました。特に、本年度はご遺族代表に「ラバウルの魔王」として連合軍に恐れられた故西澤廣義海軍中尉のご遺族の出席をいただくとともに、海上自衛隊下総教育航空群の支援をいただき、対潜水艦哨戒機による慰霊飛行と隊員による儀仗を行う等、盛大に挙行することが出来ました。

また、「予科練慰戦没者霊祭」以外に全国各地で行われた慰霊祭にも、海原会役員を出席させる等本会の目的である予科練出身戦没者の慰霊・顕彰を推進しました。

その主要なものは以下に記述するとおりであります。

1 第 4 7 回予科練戦没者慰霊祭

(1) 日 時 平成 2 6 年 5 月 2 5 日 (日) 午前 1 1 時

(2) 場 所 陸上自衛隊武器学校内 「雄 翔 園」

(3) 実施内容

ア 慰霊式典

(ア) 式典開始に先立ち、海上自衛隊下総教育航空群所属のP3C1機、及び日の丸飛行隊所属セスナ2機による慰霊飛行が実施されました。

(イ) 実行委員長 酒井副理事長の開式の辞に引き続き、国歌吹奏・献火・高松宮妃殿下御歌奉詠・式辞・追悼の言葉・遺稿朗読・献花・来賓挨拶ご遺族の言葉と続き参加者全員で若鷺の歌を合唱して無事式典を終了しました。

イ 雄翔館及び予科練平和記念館の見学

今年度は式典終了後、直会開始までに約1時間の間隙を設けリニューアルされた雄翔館の見学を参加者の皆さんに行って頂きました。

ウ 直会

慰霊式典に引き続き、約300名のご遺族並びにご来賓の皆様をお招きして、直会を実施しました。直会は、阿見町長 天田富司男様のご挨拶に引き続き、阿見町町議会議長の柴原成一様の献杯ご発声により開始され武器学校所属の常陸陣太鼓の慰霊演奏など、会員相互に懇親の実をあげて終了しました。

2 全国各地で举行された慰霊祭への参加

| | | | | |
|-------|----|-----|---------------|-----------------------------------|
| 平成26年 | 4月 | 3日 | 大分海軍航空隊鎮魂祭 | 於大分護国神社 |
| | | 6日 | 宮崎特攻基地慰霊祭 | 於宮崎特攻基地跡 |
| | | 6日 | 浜空鎮魂祭 | 於横浜市浜空神社 |
| | | 7日 | 予科練雄飛会総会及び慰霊祭 | 於靖国神社 酒井副理事長・平野理事・福田理事が出席しました。 |
| | 5月 | 25日 | 第47回予科練戦没者慰霊祭 | 於陸自土浦駐屯地内 |
| | 6月 | 16日 | 日米合同慰霊祭 | 於静岡県賤機山山頂 菅野理事が主催しました。 |
| | 7月 | 5日 | 大東亜戦争全戦没者慰霊祭 | 於靖国神社 酒井副理事長出席 |
| | 9月 | 1日 | 全国甲飛会永代神楽祭 | 津島評議員・助村事務局長出席 |
| | 8月 | 23日 | 特攻平和観音年次法要 | 於世田谷観音寺 堺理事長・助村事務局長参列 |
| | 3月 | 28日 | 第37回特攻隊合同慰霊祭 | 於靖国神社 助村事務局長・福田理事出席 |

II 定期刊行物発行业

機関誌月刊「予科練」は、発刊以来427号を数えております。

その編集にあたっては、全国各会の活動状況の紹介や、予科練同窓の戦争体験談等、ご遺族の皆様にご喜ばれるような内容の充実に力を入れてきました。

しかしながら、会員からの投稿記事も会員数の減少に伴い減少傾向にあり、機関誌の編集も思うに任せない状況となっています。このため、本年度も海原会の現状報告や雄翔館の整備状況紹介など海原会の活動状況の紹介を積極的に掲載するなど、これまでの戦争体験談やご遺族からの投稿記事主体の編集から会員相互の情報交換のための編集に配慮しました。

また、同誌に投稿をしていただいた方に記事が掲載された機関誌を贈呈することにより会員以外の購読者の発掘につなげることができました。

1 編集会議

計画どおり、年間6回の編集会議を海原会事務局会議室で行いました。

2 機関誌の発行

計画どおり、第421号から第427号までの6回の機関紙の発行を行いました。

III 青少年育成支援事業

- 1 青少年育成のため、会員から候補団体などの情報を収集して、理事会に凶ったうえ援を行うように努めましたが、今年度は特に新しい支援候補団体の推薦もなく例年どお雄翔園所在地元の阿見町が主宰をする球技大会に対して助成を行いました。

- 2 雄翔館・同園見学感想文募集

阿見町在住の小中学生を対象に、昨年度に引き続き雄翔館及び同園の見学感想文の募集を行いました。今年度も残念ながら応募件数がゼロという結果に終わりました。

IV 遺書・遺品・実戦記録等の整備事業

海原会ではご遺族に残された遺書・遺品・実戦記録などを収集して、後世に伝えるための事業を着実に推進しています。26年度は、乙飛7期故西澤廣義中尉や乙飛6期中西義男飛曹長をはじめとする多くの予科練戦没者に関する資料を収集することが出来ました。

- 1 雄翔館展示要領の一部見直し実施

平成25年4月6日に、リニューアルされた雄翔館ですが、今年度は更に展示内容の充実を推進しました。特に、雄翔館整備の間海原会の所蔵庫に保管をしていた遺品や写真などを可能な限り展示して、来館される皆さんに予科練を肌で感じて頂ける展示を目指して整備をいたしました。

- 2 海原会所蔵の遺書・遺影等の電子データ化を推進しました。

戦没予科練生に関する資料等の入手に伴い、関連する戦没者紹介ポスターを新たに作成あるいは各ポスターの記載内容の充実を図りました。

また、海原会で保管をしている遺書・遺品等を写真データ化して検索が可能な態勢を整えました。

V 遺族支援調査事業

ご遺族も年々亡くなられて、親の代から兄弟・姉妹へと移り、中には孫の代になり、世情も戦争犠牲者への関心が薄れだんだん風化されつつある現状を鑑み、音信不通のご遺族の所在を調査して会報を送付し、また本会主催の慰霊祭は勿論のこと、各地各期が催す慰霊祭にも出席の勧誘を実施して参りました。

IV 庶務事項

- (1) 理事会開催

月1回の定例理事会を海原会事務局会議室において、計画どおり実施しました。

平成26年4月24日 5月20日 6月11日 7月24日 8月21日

9月18日 10月22日 11月20日 12月19日

平成27年1月13日 2月19日 3月19日

- (2) 編集会議

機関誌月刊「予科練」の編集会議を海原会事務局会議室において実施しました。

(3) 平成26年度評議員会開催

平成26年6月11日 於霞ヶ関ビル東海大学交友会館において、平成25年度事業実施状況・会計報告及び平成26年度事業計画・予算案の審議を行い、賛成多数で可決されました。

(4) 会計監査

平成26年4月22日 海原会会議室において、平成26年度の評議員会の開催に先立ち、平成25年度の経費執行状況について監事2名による監査を実施し、平成25年度海原会の経費執行に関して問題のないことを確認しました。